

学位記番号 甲第 2259 号

Safety and usefulness in elderly patients 80 years or older of endoscopic submucosal dissection for early esophageal cancers

80 歳以上の高齢者における早期食道癌に対する ESD の安全性と有効性

宮本 康雄 (みやもと やすお)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文では、高齢者における早期食道癌に対する粘膜下層剥離術 (ESD) の安全性と有効性を示した論文である。2011 年 1 月から 2016 年 8 月に国立がん研究センター中央病院で早期食道癌に対して ESD が施行された 393 患者を後ろ向きに調査し、患者背景、内視鏡所見、使用薬剤と使用量、ESD 結果、長期成績について 80 歳以上 (A 群、n = 42) および 80 歳未満 (B 群、n = 351) の 2 群に分け比較検討した。A / B 群の平均年齢は 82.3 / 67.1 歳であった。早期食道癌の腫瘍径の中央値は、それぞれ 26mm (範囲、7-61mm) / 22mm (1-85mm) であった (P = 0.007)。処置時間は 110 分 (範囲、29-260 分) / 85 分 (24-504 分) (p = 0.006) であった。処置時間が有意に高齢群で長かったが、治療成績、有害事象には差がみられなかった。中央値 3 年間の観察期間での全生存、疾患特異的生存率は両群とも良好であった。異時性多発食道癌は 3 例 (6%) / 54 例 (15%) で死亡した症例はみられなかった。経過観察中の異時性頭頸部癌は 3 例 (6%) / 28 例 (8%) であった。食道癌による原病死した割合は 0 例 (0%) / 2 例 (0.6%) (p = 0.44)、その他の癌による死は 0 例 (0%) / 5 例 (1%) (p = 0.23) であった。他因死した割合は 1 例 (2%) / 8 例 (2%) (p = 0.95) であった。少数の原病死を認めるものの、中期成績はおおむね良好であり、早期食道癌に対する有効な治療法であることが示唆された。80 歳以上の高齢者に対する食道 ESD も、非高齢者と同様に安全に施行可能であることを示した臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。